

情報公開文書

研究課題名	複雑性虫垂炎の入院期間を延長する因子の検討
研究体制	■長野赤十字病院が責任研究機関となる
研究責任者	責任研究機関 所属 <u>小児外科</u> 氏名 <u>北原 修一郎</u>
研究期間	(西暦) 研究許可日 ~ 2023年4月10日
研究の概要	<p>(研究の意義・目的)</p> <p>当科では2000年6月から腹腔鏡下虫垂切除術を開始いたしました。同年8月には虫垂に穴が空く穿孔や虫垂周辺などに膿が溜まる膿瘍形成を合併した複雑性虫垂炎にも腹腔鏡下虫垂切除術を開始いたしました。穿孔や膿瘍形成などない虫垂炎(単純性虫垂炎)患者さんの入院期間は平均4.33日と短くなりました。一方複雑性虫垂炎患者さんの入院期間は平均9.76日と従来の開腹手術に比べて短くなりましたが、なお一層短くすることが求められています。そのため今回術後入院期間が長くなる原因を検討いたします。</p> <p>(研究方法)</p> <p>2000年6月から2021年7月まで21年間のカルテを調べます。複雑性虫垂炎手術症例は142例ありました。入院期間の真ん中の値は8日でした。在院期間8日以下のA群65例と、9日以上B群77例とに分けて、術前評価と術中・術後の経過を調べて、術後の入院期間が長くなる原因を解明いたします。</p>
試料・情報	カルテデータ
研究対象者	<p>2000年6月～2021年7月に当院小児外科で入院して、虫垂切除の手術を受けた方</p> <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>
個人情報の保護	<p>収集したデータは、誰のデータか分からなくした(匿名化といいます)上で使用いたします。国が定めた倫理指針(「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」)に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定できない形で行います。</p>
お問い合わせ先	<p>〒380-8582</p> <p>長野県長野市若里五丁目2番1号</p> <p>長野赤十字病院</p> <p>所属 <u>小児外科</u> 氏名 <u>北原 修一郎</u></p> <p>TEL: 026-226-4131 (代表) FAX: 026-228-8439</p>